

「地域と学生のために」

長野大学に自由と民主主義を

私たちは、田中教授の裁判がそのための力になることを願っています。

長野大学・田中教授の裁判を支援する会

ニュース

No. 005

2024.10.5 発行

発行責任者 鳥毛 道夫

連絡先

上田市上田原1142-7

上小労連内 26-2772

裁判の報告

原告 田中 法博

裁判の概要

長野大学における不正を告発した教員が、不正追及の報復として逆に懲戒処分を受けました。本裁判は、この長野大学が行った違法な懲戒処分の取り消しを求める訴訟です。

裁判の背景

長野大学では大学幹部による会計上の不正が実際に行われました。我々の追及によりこの不正が発覚し、大学も不正を認めなければならなくなりました。しかし、大学側は、逆に、この不正追及の手続きに問題があったとして、我々、不正を告発した側の人間の懲戒処分を行いました。

裁判の目的

①本件裁判では3つの裁判の争点（大学が示した懲戒理由）があるが、い

ずれも懲戒処分の懲戒事由が無いにも関わらず懲戒処分がなされたので違法であることを訴えた（減給処分された給与の返還を求める）

②副学長らの大学幹部が行っている不正の調査を求めたことへの報復や口止めのために違法に懲戒権が濫用されたことを訴えた（損害賠償を求める）

裁判の争点

（懲戒理由とその反論）

①副学長（理事）が目的外使用していたことが疑われた教育研究費（ゼミ費など）について

【大学側の主張】

予算要望時に「原告が予算執行に学長の許可を必要とするように要望したこと」で副学長は教育研究費が使えなくなった。

【原告の主張】

そもそも副学長は教育研究費の申請手続きを適切に行っていないから、本来、使用すること

はできなかった。むしろ、原告は、予算権限を持つ学長と相談の上、副学長が教育研究経費を使えるように学長と相談し対応方法を協議した上で予算要望をした。

②学部の教育用サーバを停止したことについて

【大学側の主張】

情報システムセンター長（原告）がセンター長のみの判断でサーバ停止をするには、学内の規程上「緊急性」が必要であるが、その緊急性があった根拠が示せていない。

【原告の主張】

サーバ停止は合理的理由があり、適正な手続きのもとで行った。不正調査の過程で、上田市や本学の要職者が、未成年の学生と飲酒をしていることが疑われる写真、女子学生との身体的密着度合いが非常に大きい写真等、教育上不適切と思われる多数の写真が公開状態で保存してあることが、教育用サーバ上で発見された。この「不適切な写真が拡散するのを防ぐため」にサーバを緊急停止した（緊急性があった）。

③副学長の研究不正を調査するように学長に強く働きかけたこと

【大学側の主張】

副学長の研究不正を調査するように学長に強く働きかけた結果、危機管理委員会が開催され、「副学長らが目的外使用していた共同利用室」に学長名で使用停止指示が出された。

【原告の主張】

不正調査という適切な

理由で危機管理委員会が開催された。また、手続きの視点からも危機管理委員会の責任者は学長であり、学長名で指示が出されていることについて、原告が責任を負う理由がない。

裁判の現状

現時点の本裁判では、単なる懲戒処分の取り消しを求めた訴訟というだけではなく、前述の「裁判の目的②」に関して、

長野大学内で違法な懲戒処分が行われた背景や理由についての議論に進んでいます。

特に、長野大学内だけでなく、上田市関係者が不正調査をしないように圧力をかけてきた証拠や大学が意図的に労基法違反による懲戒処分をした証拠を提出している段階です。そのため、現在、被告である大学は反論の主張を出すのに苦勞をされている状況であると考えられます。

「第3回 田中裁判を支援する会・報告交流集会」開催のお知らせ

田中裁判を支援する会にご参加ご協力いただきありがとうございます。支援する会の皆さんと田中裁判の現状を共有し、それぞれの会員の思いを交流しながら今後の運動につなげるための集会和、久しぶりに開催したいと思います。会員の皆さんはふるってご参加ください。また、田中裁判に関心にある方がおられましたら、お声がけをいただければありがたいです。

・10月25日（金）18：30から20：30（予定）

・場所 上田市勤労者福祉センター会議室
(〒386-0012 長野県上田市中央4丁目9-1)

・内容 ①田中裁判の現状報告：原告と弁護団

②支援する会会員の自己紹介と裁判を支援する思いの交流
(参加人数によってはグループごと)

③今後の裁判支援についての方針の確認
(証人尋問での傍聴組織、署名提出、結審前の集

証拠の例

① 2020年10月9日、上田市役所の部長が、長野大学に訪問し、長野大学の不正調査をしている教員らへの圧力をかけ、責めている様子の録音を証拠として提出した。

② 意図的に労基法違反の懲戒処分をした証拠の文書等を提出したことに加えて、本件懲戒処分の審議には、2名の現役弁護士が参加しているにも関わらず、労基法91条違反に気づかなかつたという点は極めて不自然だということを手紙した。

③ 不正を告発した職員について、誰がどのような通報をしたのかという情報、「不正をした幹部職員」に漏洩していた証拠を提出した。

今後について

現在、原告側はかなり強力な主張を証拠と共に出せていると考えています。現在は、長野大学だけでなく、上田市も長野大学の不正告発への報復に加わっていること、長野大学が意図的に違法な懲戒処分を行ったこと、

という点を強く主張しています。

そのため、被告（大学側）は反論に苦勞をしていると考えられます。実際に、長野大学側の都合で裁判が行えていない状況であり、2024年は3月と6月のわずか2回しか裁判が行えていません。このまま裁判が引き延ばされては、長野大学内で発生している問題がうやむやにされてしまうことを心配しています。

私と長野大学

赤羽 真理子

私の生家は長野大学の近くです。最初は本州大学として、里山のすそ野に建設されました。大学ができたことで、学生さんたちの往来が増え、古民家への下宿などがあり、熱気がありました。大学祭には家族や、子どもたちと展示や飲食また舞台なども楽しんで来ました。

長野大学で起こっている不正の一部は、心ある教員らの力で明らかになりましたが、学生を育てる高等教育機関としての倫理的な課題が数多く残っています。この裁判を通して、今後の長野大学は、地域社会に貢献し、地域の人々と共に学生に対して公正かつ健全な教育環境を提供するために、これらの課題を真摯に解決していく必要があります。

また地域で学習する折には講演会、上映会、報告会等でリプロホールをお借りして、学習を重ねてきました。私にとって長野大学は、地域に開かれた大学であり、学生方を社会人として育てている大学との認識でした。経営的にも上田市立となり、さらに幅広く深みを増しているのと期待しておりました。2023年6月の市民集会に参加し、市民は大

学で何が起こっていたのか知らされず、大学の不正を指摘した教員たちを懲戒処分するという本末転倒のことが起こったことを知り、ただただ唾然としました。これでは地域の大学、上田市の大学のあり方が捻じ曲げられてしまっていると思えず、きちんと大学からの回答、市からの説明があつてしかるべきだ

裁判報告会にご参加を

田中裁判を支援する会では、来る10月25日（金）18:30より、上田市勤労福祉センターで、田中裁判を支援する会の会

員を対象に、第3回の報告交流集会を開催します。この集会では、前半に裁判の現状を田中教授および弁護団から報告してもらうとともに、後半は参加者同士の交流の時間を設ける予定です。これも、多くの皆さんに支援をいただけてきました。そのような思いで田中裁判を支援しているのか、今後の支援運動をどう進めていくべきかについて、

と思いましたが。うやむやにはできないことではなく許せません。市民として納得がいきません。私も声を出してくれた田中先生を支援する会に即入会しました。当大学の学生さんにも真剣に考えていただきたい事件です。これからも会員の皆さんと輪を広げ、広く市民に知らせていくつもりです。

ざつくばらんに意見交換できればと思います。会員の皆さん、ぜひお気軽にご参加ください。

※上田市勤労者福祉センター・〒386-0012上田 市中央四丁目9番1号
集会へのお問い合わせは支援する会事務局までお願いします。

田中裁判のさらなる支援を各団体に要請しています！

団体に要請行動を行いました。皆さんのご協力ののおかげで、田中教授の勝利判決を求める署名は1000を超えています。これをさらに1500筆、さらには2000筆をめざして広げていこうと考えています。9月24日には上小労連の幹事会の冒頭で、田中教授と共同代表が、裁判の現状報告と訴えをさせて

ある所で支援共闘会議と弁護団の合同会議があったのですが、私とある方と意見が真反対ということがあり、会議後の酒の席でも議論は続き、席がお開きとなった後も酒の影響が次第に一方だし、小突きました。そして、いきなり、原告の皆さん割って入って収まらなくなった。翌朝目が覚めると、不覚にも大喧嘩するほど何の議論をしていたのかよく覚えていません。しかし、周りの仲間は覚えていて、改めて双方の主張と思われることも取り入れて協議し、新たな結論にいたりしました。当事者はというところ、二日酔いで頭は痛いし、格闘技で身体中が痛いし、頭を垂れているだけでした。方針を練り上げていくときって、とんでもないことが役に立つこともあるという経験でした。

争議夜話

いただきます。さらに27日には長野労連の幹事会でも同様の訴えをさせていただきます。それぞれの団体からも激励をいただいています。今後も、このような行動を可能な限り進めていく予定です。

